

7月19日にニューヨークのダウ工業株価は14,000ドルと史上最高値をつけた、そのわずか5日後の7月24日にはアメリカの住宅バブルの崩壊(サブプライムローンの一部破綻が発覚)が表面化し、ダウ工業株価及びドル(円に対し)が約6%値下がりし、それに連動し日本の株価と世界の主要株価も値下がりしている状態が続いている。今回のサブプライムローンの損失規模は、IT化により情報収集が寸時に出来る現在社会において、世界の金融・財務担当者のトップにおいても未だに推定できない。ただ、アメリカのバーナンキ米連邦準備理事会(FRB)議長(日本銀行総裁にあたる)は8月31日の講演で、「サブプライムローンを基点に発生する世界規模の損失は、最も悲観的なサブプライムローンの損失予想をはるかに超えている」と発言している。

## 荒井昇の辛口コラム⑬

【まだ間に合う、資本主義経済の崩壊に緊急に対処せよ!!】

今回も経済の話に絞りました。なぜならば、いま世界経済は1929年の世界恐慌以来の危機が迫っているからです。



アメリカの住宅バブルの崩壊は、当然我々の生活に大きく跳ね返ってきます、日本にも半年以内に大変な経済危機が襲ってきます。経済危機が表面化する前に(既に表面化していますが)、最大の防備(防備6ヶ条は前号に記載済)を今月中にさせていただくために、今回も記述しました。

サブプライムローンの崩壊が世界の金融の流れに劇的な変調をきたしています。即ちCP(コマーシャルペーパー：大企業の市場での資金調達先)での資金調達が困難になりつつあり、M&A(企業買収)資金がほとんど集まらず、その他すべてのファンド資金が急速にしばみつある。いわゆる信用収縮化(人間の身体であれば、心臓停止に向っています。心臓に血がまわりづらくなっているのです。)が生じています。8月の雇用統計も非農業部門で就業者がマイナスになるなど、実体経済に大きな影響が出だしています。またアメリカの不動産価格は買手不在で急落しています、このためサブプライムローン(信用度の低い)だけでなく、信用度の高い不動産ローンにも大きな焦げ付きが出だしています。アメリカの住宅ローンの額は全体で約1,600兆円と言われていました。日本の不動産ローンがバブル期の約200兆円と比較しても大変な金額です。バブル崩壊での下落率は、歴史から推測すると8~9割なので、アメリカ国家は不動産に関する不良債権約1,300兆円を背負うこととなります。

更に、この不動産バブル崩壊のスパイラル(悪循環)は、同時に平行して、既にバブル化しているアメリカの株価・ドル・債権(ファンド含む)に飛び火し、同じくバブル化している世界の株価・債権(ファンド含む)に飛び火します。荒井会計通信で既報のとおり、今年10月にニューヨーク株価とドルは暴落し、この暴落は直ぐに世界に波及し、

今年の年末には大変な状況に陥ります。この株・債権・ファンドのバブル崩壊でアメリカは約2,400兆円の不良債権を抱えます。上記不動産の不良債権1,300兆円と過去のアメリカ政府債務(国家借金)約1,050兆円あり、これらを加えると実に負債は4,750兆円となります。ご存じの通り、アメリカ人は預貯金をほとんど所有していません。この結果アメリカ国家の純負債が4,750兆円となり、1世帯当たり、実に約14,000万円の借金を抱えてしまいます。アメリカ人の1世帯当りの平均年収は約600万円なので、とても返せる金額ではありません。その他不況により企業の多額の赤字が出てきます。この結果、アメリカは国家破産に陥り、アメリカのドル紙幣は紙切れになります。  
次号につづく(今回も辛口コラムと経済予測の合併号。)

## 身近な疑問

坂本 喜彦

時々電話料金が安くなるという営業電話がありますが、皆様もそういう電話受けたことはございませんか？今回は“安くなる”ということが客観的に根拠があることなのかを、お話ししたいと思います。以前、通信事業はNTTが独占的に行っていました。しかし、ここ数年で2回の“安くなる”大きな転機がありました。1回目は2001年マイラインサービスの登場です。マイラインは基本料金は今まで通りNTTに支払うのですが、通話料を支払う会社が選択できるもので、これにより固定電話業界は競争の時代に突入したのです。2回目は2005年直取型固定電話サービスの登場です。これにより基本料と通話料を一括して支払う会社を選択できるようになりました。他にもインターネット網を利用したIP電話もあります。つまり、利用者の選択の幅は確実に広まっているのです。しかし、選択肢が逆にありすぎて、どうしたらいいのか分からないというのが現状のような気がします。営業電話は信用できませんが、どこかに利用者の利用環境に整合した低価格サービスが必ずあるのではないかと思います。

